

## ボブベックのやさしい投資信託

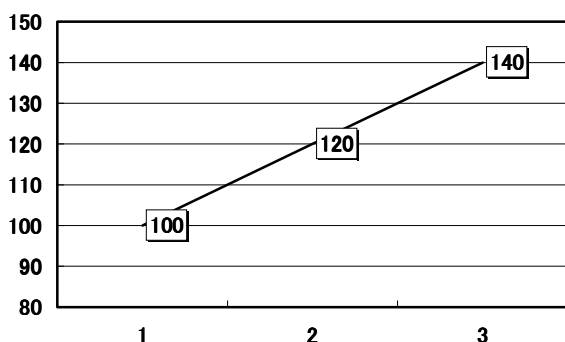
### 第24回 バランス型ファンド その2

#### (6) バランス型ファンドのリスク

今回は、株式が下落した場合にバランス型ファンドの基準価額がどのように推移するかについて解説しました。今回は、株式が上昇した場合を考えてみましょう。

#### (C) 株式が上昇した場合

前回と同様、資産の50%を株式、残り50%は何も投資せずに現金で置いておいたところ、株式が以下のように値上がりしたとしましょう。



株式は100から140に40%の上昇をしたのだから、株式を50%組入れていた場合には、資産全体は20%の上昇( $50\% \times 40\% = 20\%$ )、基準価額で言えば、10,000円が12,000円になるかということ、そうではありません。

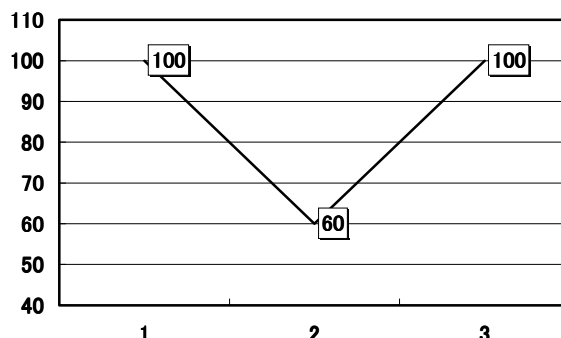
株式の組入比率を計算してみると、次の表のようになります。

	1	2	3
現金	50	50	50
株式の時価	50	60	70
株式の比率	50%	54%	58%

しかし、現実には「常に資産の50%を株式に投資する」ために、2の時点で株式の比率が54%まで上がっていますから、資産全体に占める比率が50%になるように、株式を売却するのです。すると、実際の資産全体の価値は20%の上昇ではなく、19.2%の上昇となるのです。基準価額で考えると、先ほど計算した12,000円ではなく、11,917円になるのです。

#### (d) 株式が下落した後、上昇した場合

それでは、以下のように株式が変動した場合にはどうなるのでしょうか。



この場合、3の時点では、1の時点と株価は一緒ですから、基準価額も1の時点と変わらないように思われます。しかし実際には、2の時点で株式の比率は、38%となってしまいますので、50%に維持するために、株式を買い増します。そうすると3の時点では、1の時点に比べ約6.7%資産が増加するのです。基準価額で言えば10,000円でスタートした基準価額が、3の時点では株価は変わらないのに、10,670円になっていることとなります。

#### (e) バランス型ファンドの特徴

実際の運用の場合、(b)~(d)で説明したように、毎日50%になるよう厳密に運用しているわけではありません。しかし長期的な観点で見ると、「株式が下落 株式を買い増し」、「株式が上昇 株式を売却」といった運用をしていることになるのです。株式がある一定のレンジで上がったたり下がったりする場合((d)のような場合)には、このような売買が効果的です。安値で買い、高値で売却するのですから、基準価額は相当良いパフォーマンスとなるでしょう。しかし、株式が上がり続けた場合((c)のような場合)には、次々に株式を売却するのですから「思ったよりも基準価額は上昇しない」ことになり、株式が下がり続けた場合((b)のような場合)には、「思ったよりも基準価額は下落している」といった結果になってしまうのです。

ですから、「株式に100%投資するファンドはリスクが高すぎる」からといってバランス型に投資するよりは「株式に100%投

資するファンド」と「MMFや中国ファンド」に資産を半分づつ投資した方が効率は良いのです。